

社会的養護施設従事者の養育行動尺度の開発

(中間報告)

兵庫教育大学大学院 伊藤 大輔

兵庫教育大学大学院 瀧井 綾子

Development of Fostering Behavior Scale at Social Care Institutions for Children

Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education, ITO, Daisuke
Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education, TAKII, Ayako

要約

社会的養護は、家庭環境で行われるものと、施設環境で行われるものの2つに大別でき、本邦においてはその約8割が施設環境で行われている。また、その入所児の大半が虐待経験を有しており、被虐待児が呈する症状は非常に複雑であると言われている。つまり、日本の社会的養護では、複雑な様相を呈する多くの児を、少ない養育者で支援する必要がある。このことから、社会的養護施設における入所児への対応の在り方の検討は急務であると考えられるが、入所児に対する効果的な関わり方については実証的に明らかにされていない。そこで、本研究では、社会的養護施設従事者に対する入所児支援に関する教育研修プログラム開発の前段階として、社会的養護施設従事者の養育行動を評価する尺度を作成するとともに、従事者の養育的関わりが入所児の状態へ及ぼす影響を検討する。なお、本中間報告では、パイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度作成の過程を報告する。

【キー・ワード】社会的養護施設、養育行動、施設従事者

Abstract

Social care can be roughly divided into two, one carried out in the home environment and one carried out at the institutions, in Japan about 80% of which are done at the institutions. Most of their children have abusive experiences, it is said that the symptoms presented by abusing children are very complicated. In social care in Japan, it is necessary to support many children with complex appearance with less caregivers. So, it is considered urgent to examine how to respond to admitted children in social care institutions, but it has not been demonstrated empirically as to how to effectively engage in children. Therefore, in this research, as a preliminary stage of the development of educational training program on child support for admitted children for workers of social care institutions, we develop a scale to evaluate fostering

behavior of social care institutions' workers and examine the effect of their behavior on children. In this progress report, we showed the process of preparing the pilot version fostering behavior scale at social care institutions for children.

【Key words】 social care institutions for children, fostering behavior, workers of institutions for children

背景・目的

社会的養護とは、厚生労働省によって、「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」と定義されている。社会的養護の種類としては、里親や養子縁組といった家庭環境で行われるものと、児童養護施設などの施設で行われるものの2つに大別できる。先進諸国が里親や養子縁組の制度を充実させていることと比較して、日本においては、家庭的養護を推進してはいるものの、施設養育の占める割合は8割を超えている。また、社会的養護施設入所児の特徴として、乳児院を除く施設入所児のうち被虐待経験のある児が50%以上と高いことが挙げられる(厚生労働省, 2015)。そして、被虐待児は反応性愛着障害、脱抑制型対人交流障害、複雑性 PTSD など、非常に複雑な症状を呈するとされている。

従来の社会的養護施設における養育に関する研究は、発達障害児を持つ両親が実践するペアレント・トレーニングを応用したものが多く(例えば、宮地ら, 2015)。しかしながら、家庭環境における養育者と施設環境における社会的養護施設従事者は、養育行動の特徴に差異が想定されるとともに、施設環境においては、複雑な症状を呈する多数の入所児を少ない支援者で養育しなければならないといった特徴がある。このことから、施設従事者の養育行動に関する実証研究からの知見に基づいて、先述のような特徴を持つ環境や入所児の状態像を鑑みた、入所児への効果的な支援の在り方を検討しなおす必要がある。

そこで本研究では、まず、社会的養護施設従事者に対する被虐待児を含めた入所児支援のための教育研修プログラムの在り方を提言するための準備段階として、社会的養護施設従事者の入所児に対する養育行動尺度を作成し、従事者の養育行動と入所児の心身の状態改善との関連を検討することを目的とする。なお、本中間報告では、パイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度作成の過程を報告する。

方法

パイロット版「社会的養護施設従事者の養育行動尺度」作成のための手続き

社会的養護施設従事者の養育行動尺度を作成するため、まず、先行研究において養育関連行動を評価する尺度を参考に項目を収集した。具体的には、養育態度尺度(鈴木ら, 1985)、養育スタイル尺度(松岡ら, 2011)、愛着・養育バランス尺度(武田ら, 2012)、肯定的・否定的養育行動尺度(伊藤ら,

2014)、学級担任教師のリーダーシップ行動尺度(三隅ら, 1989)、指導行動尺度(弓削, 2012)の質問235項目をプールした。これらの質問項目より、臨床心理士1名、児童相談所に勤務する看護師1名、心理学を専攻する大学生1名で行い、内容的妥当性の確認を行いつつ、項目の選定を行った。項目の選定基準は、①支援者による、子どもへの直接の関わり方に関する行動であること、②態度・パーソナリティ・情動・思考は含めず、外顕化した行動であること、③支援者自身の援助希求能力など、子どもとの直接的な関わり以外の職務に関する行動は含めない、④日常的な活動に沿ったものであり、行事等の非日常は想定しない、とした。項目数は147項目となった。

さらに、選定された項目にて、心理学を専攻する大学院生1名、クリニックにて心理療法に従事している職員1名、心理学を専攻している大学生4名でKJ法を実施し、項目の絞り込みを行った。その結果、67項目のパイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度が作成された。パイロット版尺度の質問項目を表1に示す。

表1 パイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度の構成

項 目
1. 余暇時間、休日の過ごし方など、生活態度をきちんとするよう、子どもに注意する。
2. 子どもに対して、長時間説教をしたり、文句を言い続ける。
3. 人前での発表や、子どもの意見に異論を唱えるなどして、子どもが乗り越える壁を作る。
4. 自分(支援者)のその時々で気分がスキンシップをする。
5. 子どものした悪いことは、みな、何らかのかたちで罰を与えるべきだと思う。
6. 自分(支援者)の趣味や体験談や考えなど、自分のことについて子どもに話す。
7. 子どものために作った決まりを、よく変える。
8. 皮肉っぽく叱る。
9. 自分(支援者)のペースや都合よりも、子どもを優先する。
10. 施設の規則を破ってでも、子どものしたいことは何でもさせる。
11. 子どもが何を求めているか理解しようとする。
12. 子どもの反応や心情に応じて指導方法を変える。
13. 子どもと一緒にものごとをする場面を避ける。
14. 子どもに対しては、決まりをたくさん作り、それを何回も指示しなければいけないと思う。
15. 子どもに、明日は何をする予定か尋ねる。
16. 子どもに自分(支援者)の失敗談を話す。
17. 作業がうまくいかない子どもを、サポート役の子どもにみてもらおう。
18. 日常生活の中で、子ども一人ひとりの様子を見守る。
19. 個人的なイライラを子どもにぶつけてしまう。
20. 子どもが悪いことをしたときには、大声で怒鳴る。
21. 学校での活動(授業参観・面談など)に積極的に参加する。
22. 頭をなでる、握手をするなどのスキンシップをする。
23. 子どもに駄々をこねられたときは、自分(支援者)が折れて、子どもの考え通りになる。

表1 パイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度の構成, 続き

項 目
24. 子どもの意見や行動をほめたり, お礼を言う。
25. 子どもが問題に直面していても, あえて突き放して, できるだけ本人に解決させる。
26. 子どもと意見が対立したときでも, お互いに思っていることや要望を率直に話し合う。
27. 子どもの目を見て話そうとする。
28. 子どもの考えは, ばかげたものに思う。
29. 子どものために他のことを犠牲にすることをいとわない。
30. もう少し違った子どもだったら円満におさまるのに, と思う。
31. 子どもに, 施設の規則を守るように言い聞かせる。
32. 子どもの健康に気を配る。
33. 子どもとできるだけ長い時間直接関わりを持つようとする。
34. 子どもに, 物を大切に使うように言う。
35. 子どもが幸せでいられるように支えてあげたいと思う。
36. 子どもと一緒に遊んだり, 楽しいことをする。
37. テストの成績が少しでも悪くなれば(またはよくならなければ) 子どもに説教する。
38. 子どもに対して, 乱暴な言葉遣いになる。
39. 子どもが怖がっているときは安心させようとする。
40. 間違っているとわかったときは子どもに謝る。
41. 子どもに何か起こるといけないから, あまり外出させたくないと思う。
42. 子どもの学習につきあったり, 一緒に掃除をしたりする。
43. 子どもに, 他人に迷惑をかけないなど, 社会のルールを守るように言う。
44. 子どもと将来の進路(進学, 就職など)について話す。
45. 困った行動をとる子どもが自分の問題に気づくまで待つ。
46. 子どもの話に耳を傾ける。
47. 子どもを邪魔者あつかいする。
48. 子どもを笑いものにしてしまう。
49. やってはいけないと自分(支援者)が言ったことを子どもがしていても, とがめたてない。
50. 子どもを叱ったり, 許したり, ほめたりする基準が, そのときの気分で左右される。
51. 子どもがしたいことに文句を言う。
52. 子どもと一緒に喜んだり笑ったりする。
53. 子どもに, 人間の生き方について話す。
54. 子どもには, できるだけ自分(支援者)の考えどおりにさせたい。
55. 施設内の問題, もめ事などを子どもと一緒に考える。
56. できるだけ子ども自身の意思を尊重する。
57. 子どもに社会の出来事を話し, 関心を持つように言う。
58. 子どもに, 勉強は自発的にするものだと言う。
59. 子どもに, ちょっとしたこと(どの友達と遊ぶべきかなど)でも, どんなふうにしたらよいかを言い聞かせる。

表1 パイロット版社会的養護施設従事者の養育行動尺度の構成, 続き

項 目
60. 子どもに, 施設内の誰とでも仲良くするように言う。
61. 子どもが言うことを聞かない場合, 脅かしたり叩いたりといった強い厳しい叱り方をする。
62. 子どもがみんなで協力しないと解決できない課題を作る。
63. 勤務外でも子どもと遊んだり, 話したりする。
64. えこひいきせず, 子どもと公平に接する。
65. 子どもに, 施設内のみんなで協力するように言う。
66. 子どもに, 困ったことがあったら相談するようにいい, 相談にのる。
67. 施設外での子どもの様子(学校での出来事, 交友関係など)を把握しようとする。

今後の展望

社会的養護施設従事者 500 名程度に質問紙調査を行い, 社会的養護施設従事者の養育行動尺度の因子構造確認を行うとともに, 信頼性および妥当性の検討を行う予定である。また, 完成した養育行動尺度を基にクラスタ分析を行い, 養育行動の特性と子どもの状態との関連を検討する予定である。

引用文献

- 伊藤大幸・中島俊思・望月直人ほか 2014 肯定的・否定的養育行動尺度の開発: 因子構造および構成概念妥当性の検証 発達心理学研究, 25(3), 221-231.
- 厚生労働省 2015 児童養護施設入所児童等調査結果(平成 25 年 2 月 1 日現在)
- 増沢 高 2009 虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助 福村出版
- 松岡弥玲・岡田涼・谷伊織ほか 2011 養育スタイル尺度の作成: 発達の变化と ADHD 傾向との観点から 発達心理学研究, 22(2), 179-188.
- 三隅二不二・矢守克也 1989 中学校における学級担任教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成 その妥当性に関する研究 教育心理学研究, 37(1), 46-54.
- 鈴木眞雄・松田惺・永田忠夫ほか 1985 子どものパーソナリティ発達に影響を及ぼす養育態度・家族環境・社会的ストレスに関する測定尺度構成 愛知教育大学研究報告, 34, 139-152.
- 武田江里子・小林康江・加藤千晶 2012 母親の子どもに対する「愛着・養育バランス」尺度の開発 第 1 報—母親から子どもへの「愛着」「養育」の構成因子の抽出— 日本看護科学会誌, 32(1), 30-39.
- 武田江里子・小林康江・加藤千晶 2012 母親の子どもに対する「愛着・養育バランス」尺度の開発 第 2 報—尺度としての信頼性と妥当性— 日本看護科学会誌, 32(4), 22-31.
- 弓削洋子 2012 教師の 2 つの指導性機能の統合化の検討—機能に対応する指導行動内容に着目して— 教育心理学研究, 60(2), 186-198.

